

## 事業実績書

事業名	市民のプラットフォームを作る住民組織化の実践	
場所	オンライン 真楽寺	
期間	2020年4月1日 ~2021年3月31日	
	日程	実施項目・作業項目
事業内容	4/17	zoom 打合わせ：コロナウイルスの影響による今後事業の実施について
	4/22	要望書提出 ひとり親家庭のコロナ禍におけるアンケート調査の実施をもとに要望
	5/5	zoom 会議：コロナウイルスの影響による市民生活、市民活動の変化についての調査(ブルーシートカフェ)
	6/1	zoom 打ち合わせ
	7/11	zoom 打ち合わせ 県大生
	7/25	zoom 打ち合わせ 県大生
	7/30	社会的企業研究会参加
	8/8	zoom 打ち合わせ 県大生
	8/22・30	会議(zoom)キックオフミーティング 静岡県立大学ファシリテーション同好会による進行 趣意書2回に分け開催
	9/15	Zoom 打ち合わせ
	9/21	第2回会議及び勉強会(zoom)工藤律子氏「つながりの経済を創る」(講師費は県大研究費)静岡県立大学ファシリテーション同好会による進行
	9/28	協力のテクノロジー参加
	10/1	zoom 打ち合わせ
	10/11	第3回会議及び勉強会(zoom)岸本聡子氏「欧州のまちづくり ミュニシパリズムという潮流」(講師費は県大研究費)
	10/15	zoom 打ち合わせ
	11/7	ブルーシートカフェ(サンウエル)
	11/8	第4回会議(zoom&真楽寺) 理念。ミッションのブレスト
	12/6	zoom 打ち合わせ
	12/13	主催：社会的連帯経済を推進する会 共催：市民セクター政策機構「コロナ禍と社会的連帯経済を考える」オンラインセミナー登壇(津富・深野・小和田)社会的連帯経済を地域でどう推進するか
	12/3・1/2	沼津のくらしを守る市民連帯「年末年始のお困りごと相談会」開催
	1/10	第5回会議(zoom)役割・使命・価値観の共有
	2/14	第6回会議(zoom) 定款の確認 会の目的について、法人について
	2/11	Zoom 打ち合わせ
2/17	名称アンケート フォームによる投票	
2/20	設立準備委員会(zoom&真楽寺) 理事の選考、理事長・副理事長・監査・名称の選考	
3/2	読書会「社会はこうやって変える」(zoom)	
3/5	Zoom 打ち合わせ	
3/7	第7回会議(zoom&真楽寺) 設立趣意書、会の名称、理事、費用などについて	
3/23	読書会「社会はこうやって変える」(zoom)	
3/28	設立総会(zoom&真楽寺)	
事業効果	<p>・計画では会議を定期的に関催しながら、地域の課題を解決する市民のお財布「ローカルファイナンス」と地域の困りごとを社会課題として共有する場をつくる「沖縄地域円卓会議」の手法を学ぶ計画だったが、コロナウイルスの影響により、対面で行うWS開催や講師日程、会場調達も難しいことから断念。オンラインでの会議を中心行った。</p> <p>・キックオフとして県大研究費を利用し、2名の講師を招聘。学習会とWSを行い、組織化するためのエッセンスを学ぶ。その後、合意形成するためにオンラインで会議を繰り返した。3月末に最終的な目標であるプラットフォームをつくるための、</p>	

住民組織化を行い、一般社団法人を立ち上げた。設立総会には 32 名が参加した。

- ・静岡県立大学ファシリテーション同好会に協力していただきオンライン MT を行った。初めてオンライン、zoom を利用する人も多かったが、戸惑うことなく円滑に会議を行うことができ、その後の会議参加もスムーズに参加してもらえた。
- ・市民の課題解決のためのプロセスの実践として、沼津市ひとり親会のコロナ禍の課題についてアンケートを実施し、要望書を提出。また、沼津のくらしを守る市民連帯を組織化し、「年末年始のお困りごと相談会」を行った。
- ・住民組織化のための勉強会として「社会はこうやって変える」読書会を行う。日本にはコミュニティ・オーガナイズングについて書かれている本が少ないが、定期的に読書会を開催し、オーガナイザー育成を図った。

今後の活動予定

コロナの影響で、対面によるワークショップを開催することができず、当初見込みよりも参加してくれる人数が減ってしまったが、拠点を早急に確保し、持続可能な活動にするための100名を目指して場づくりを行う。コロナ渦で市民の困りごとを中心とした、取り組みの中で、新たなつながりが生まれた。さらに、つながりを広げていくために定期的に市民会議などを開催していく。また、情報共有ができるように、活動報告紙や、facebook、LINE、HP を活用していく。<https://thinknumazu.wordpress.com/> 今後は、更に市民の問題解決のために、コミュニティ・オーガナイザーが必要とされているため、今後も育成を行っていく。

自己評価

ローカルファイナンスや、対話の手法については学びあうことができず、また、全体の日程の遅れたこともあり、指標の検証方法に基づいた自己評価はできないが、市民の抱えている様々な困りごとについて、多様な市民が連帯し、主体的な市民活動がコロナの影響で実行された。

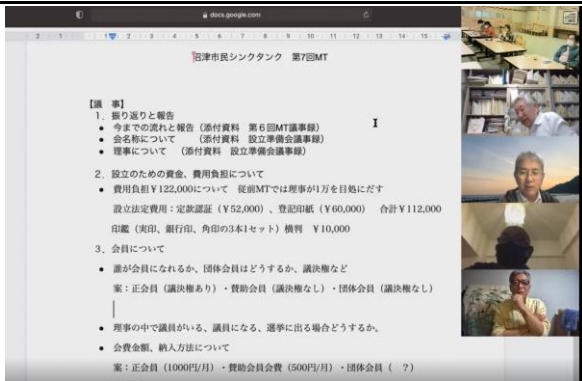
実行できた理由として、市民活動の拠点とされる、公共施設がほぼコロナの影響で利用できなかったが、市民の様々な困りごとが集まる生活困窮者自立支援センターに、困りごとを支えるために市民が集まったことが大きい。困りごとを中心に地域に力を持つことができた。コミュニティ・オーガナイズングをかけながら少しずつ組織化することにつながった。



真楽寺にてオンラインと対面の併用による会議



真楽寺にてオンライン併用による設立総会。こども会員も含め 32 名が参加



オンラインと対面の併用による会議。資料共有や、議事録動画作成がスムーズに



Zoom でキックオフミーティングを開催。静岡県立大学ファシリテーション同好会による進行